

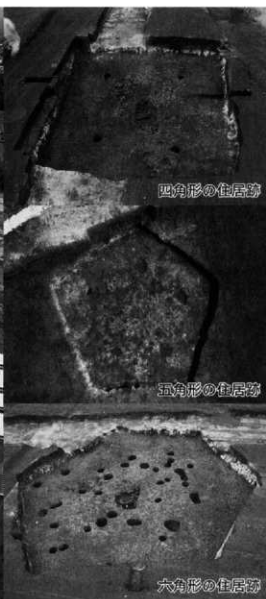
みやざき



発行日 平成20年3月28日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

古墳時代のマイホーム事情
あなたはどの形が好き？



平峰遺跡は、都城盆地南部の標高170mの平坦なシラス台地上に位置しています。発掘調査では、古墳時代中頃の竪穴住居跡約30軒を中心に溝や多数の小穴などが発見されました。このことから遺跡一帯には古墳時代の集落跡が広がっていたことが明らかになりました。

と、これまでなら、どこにでもありそうな遺跡の紹介。平峰遺跡が特別なのは、竪穴住居跡の平面形（上空から見た形）が五角形（2軒）と六角形（2軒）だということです。「えっ何が特別？」と思うかも知れませんが、一般的に古墳時代の竪穴住居は四角形なので、五角形と六角形の竪穴住居の存在は、非常に特別だという訳です。しかも、南九州初見参!! 全国的には西日本を中心に弥生時代の発見例があるようですが、古墳時代中頃に造られた平峰遺跡のものは、最も新しい時代の発見例になるようです。形の違いによる使用目的の違いなどは今後の検討課題になりますが、それはさておき、みなさんならどの竪穴住居に住んでみたいですか？

のくびたいに
野首第2遺跡 (二次) ~高鍋町大字上江~

遺跡を掘ると、特定の時代だけの場合もありますが、様々な時代の遺構や遺物が見つかることも多いです。このような遺跡のことを複合遺跡と呼びます。小丸川の南の台地上にある野首第2遺跡もそんな遺跡のひとつで、旧石器時代から古墳時代までの幅広い時代の遺構・遺物が発見されています。

旧石器時代の石器群(ナイフ形石器・細石刃など)や縄文時代でも早い時期に使用される調理施設跡(黒石遺構・炉穴)などのほか、特に珍しい一品として瑪瑙製の小玉が、古墳時代中頃の堅穴住居跡で見つかっています。

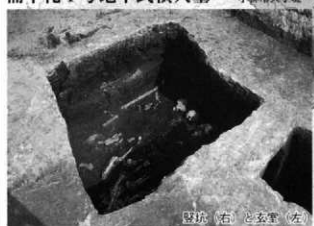


縄文時代の調理施設跡が一つ一つ、たくさん集まっています。



古墳時代の堅穴住居跡が見つかっています。

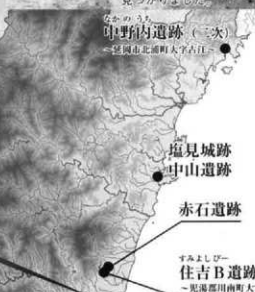
くすなれいらごうちかしきよあなほ
楠牟礼1号地下式横穴墓 ~小林町大字堤~



堅穴(右)と玄室(左)

地下式横穴墓とは、地面に縦方向の穴(堅穴)を掘った後、穴の底から横方向にトンネルを掘って連体を安置する空間(玄室)をつかった古墳時代の南九州特有のお墓のことです。

地面の下に空洞があるので、昔から天井が落ちて発見されるケースが多く、今回も道路工事中に天井が落ちて偶然発見されました。調査を実施したところ、台形状の平面形をした玄室の中に剣・鉄鎌・刀子などの副葬品と一緒に3体の人骨が安置されていたことが確認できました。



のくびたいに
中野内遺跡 (三次) ~高鍋町大字上江~

一里塚山頂部から大字上江へ

赤石遺跡

塩見城跡

中山遺跡

住吉B遺跡

北尾川南町大字川南へ

あまのこちゅうめ
旭2丁目遺跡 ~宮崎市旭~

山之城跡

半峰遺跡

宮館第2遺跡

南郷郡北郷町大字野之原へ

曾井第2遺跡 (二次) ~宮崎市大字榎久~

江三時代の海客群

中山遺跡の遺構図

塩見城跡

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

お殿様の住まいは、崖の上!?

しおみじょう なかやま

塩見城跡・中山遺跡

~日向市大字塩見~

「日向三城」をご存じでしょうか。県北海岸部の軍事拠点だった「門川城」「塩見城」「日知屋城」の3つの中世山城のことを「日向三城」と呼んでいます。この三城のうちの塩見城があった丘陵部分の発掘調査を行いました。塩見城は、南北朝時代に財部土持氏が築いた後、伊東氏のものとなり、1615年の一国一城令で廃城になったと伝えられています。

塩見城跡では主郭西側の調査で、敵の侵入を防ぐために尾根を切断した跡(堀切)や防御と排水の2つの機能をもった石相施設などが見つかりました。また、主郭から南へ伸びる尾根上に位置する中山遺跡では、尾根を段々のように切り開いてつくる建物を建てるための平坦地(曲輪)と掘立柱建物群、さらに丘陵の南を流れる塩見川から遺跡を縦断して尾根筋を上げる通路などを発見しました。



堀切跡 (写真の部分)

通路状遺構②

通路状遺構①

中山遺跡の遺構図

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋



塩見城と岡辺

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

尾根筋

塩見城は、断崖や堀切によってはばまれた曲輪群や丘陵の最高所にある主郭などから、有事に備えた堅固な山城であったことがわかります。しかし、すぐ隣の中山遺跡では、比較的開けた空間として通路や曲輪群を利用していたようで、お殿様の日常は案外こちらにあったのかも知れません。

今回の調査対象ではなかったですが、主郭跡はすでに公園として整備されています。城下の町並みや日向灘を塩見城主の気分で眺めてみるのも一興ですね。

山の手は、今も昔も高級住宅地!?

あか いし

赤石遺跡

～見湯郡川南町大字川南～

赤石遺跡は、日向灘を望む標高155mの山中に位置しています。周辺には集落や茶畑もあるのですが、それは昭和になって開拓されたから。調査場所の現状は、「こんな所に本当に遺跡があるの?」という印象を受けるほど、薄暗い林の中でした。

しかし、発掘調査では、縄文時代後半と弥生時代中頃の竪穴住居跡が見つかり、290㎡という狭い調査範囲にもかかわらず、同時代の土器や石器が所狭しと出土しました。

地元では「土を起こすと何かが見つかる。」と言われた所で、私たちには意外な場所であっても、ここを選んだ人々にとっては、豊かな生活を送ることができた安住の場所だったのでしょう。

日向灘から昇る朝日も格別ですわね。



弥生時代の竪穴住居跡を掘っています。



出土した縄文土器



上取真の竪穴住居跡



日向灘を望む



拓本、上手にとれたかな?

さあ、埋文センターに遊びに行こう!!

埋蔵文化財センターは、宮崎市佐土原町の「本館」と宮崎市神宮の「分館」の2か所にあり、どちらの施設も見学が可能です。(分館は土日祝もやってます!)

興味のあるなしにかかわらず覗いてもらいたいのですが、「難しそうだし、なんだか敷居が高くてねえ。」と思っていた方に朗報です!

11月には、埋文センターの日々の仕事が体験できる施設公開を行っています。

ちょっとでも興味をもったなら、気軽に遊びに来ていただきたいです。みなさんの住む場所が実は遺跡だった、なんてことがわかるかもしれませんよ。

埋蔵文化財センターでは、これまでにたくさんの遺跡の発掘調査を行ってきました。そんな遺跡や発見された遺物を紹介するため、出前講座やミニ巡回展を開催して皆さんに喜んでいただいています。学校や地域の歴史講座などで本物に触れてみてはいかがでしょうか。詳しくはホームページなどをご覧ください、お気軽にご相談下さい。

埋蔵文化財通信 みやざき 第9号

発行日 2008年3月28日

編集・発行 宮崎県埋蔵文化財センター

本館 〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL(0985)36-1171 FAX(0985)72-0660
分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号 TEL(0985)21-1600 FAX(0985)26-2634
ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>